

『ごみ』について ちよつと考えてみませんか？

私たちの町のごみ処理施設「葛巻町清掃センター」は、老朽化が進んでいます。町が処理している燃えるごみは、生ごみやビニールなどの混入率が高いことから施設の修理などの費用が年々増加し、負担が大きくなっています。環境に配慮しながらコストが増えないようにするには、どのようにすればいいのか一緒に考えてみましょう。



空き缶の分別作業（リサイクルセンター）

生ごみが原因で 修理費が増加

町の清掃センターは平成5年から稼働し、すでに17年も経過しています。平成14年にはダイオキシンの排出基準をクリアするため、大規模な改修工事が行われました。現在、施設の修理にかかる経費は年々増加傾向にあります（図1）。この理由は施設が古いこともありますが、この一番の原因は、「生ごみ」にあります。

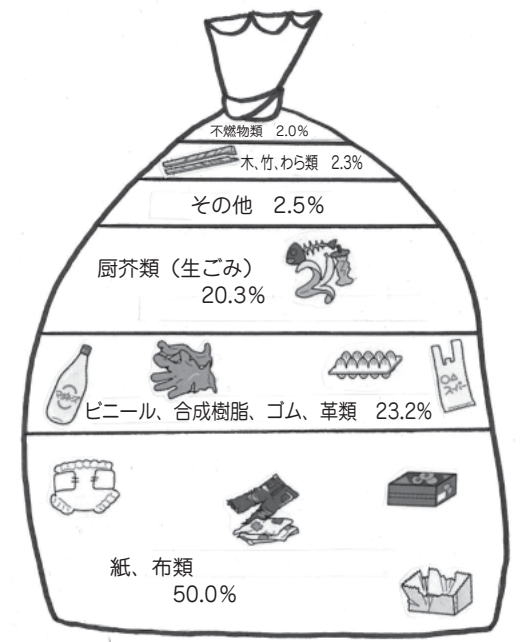
生ごみは、水分が多く、燃えにくいいため、高温での処理が必要になります。これが焼却炉にかなりの負担を与え、厳しい維持管理を余儀なくされています。

また水分を含んだごみを燃やすことで、ダイオキシン発生につながることもあります。

ごみはどれくらい 出ているか？

町の年間の可燃ごみの総排出量は、ここ5年間では、ほぼ横ばいとなっています（図2）。平成21年度のごみの排出量は、1964トン。一人当たり換算すると約697グラムで、毎日約700グラムのごみを出している計算になります（図3）。平成21年度の町のごみ処理費用は約6千万円になっています。町民ひとり当たりの費用は約7790円になります。（図4）

燃えるごみ組成分析結果（過去5ヶ年平均）



の基準値を超えると焼却炉の運転を停止しなければなりません。燃えるごみの分析結果では、買い物袋などのビニール類や生ごみなどの厨芥類が依然高い割合になっています。またごみの三成分（水分・灰分・可燃分）の水分数値が50%を超えていて、いかに生ごみの量が多く、水切りがよくされていない状態かということが分かります。

生ごみを出す場合は 水切りをしっかりと

では、この生ごみをどう処理すればよいかというと、コ



ンポストなどで堆肥にし、畑に還元するなどして生ごみを出さないことが望ましいです。生ごみを出す場合、水切りをしっかりとすることが重要です。また、生ごみを出さないよう料理の仕方を工夫したり、食べきれないだけの量を調理することも大切です。



そのほか買い物時、買い物かごや自分の買い物バックを待つことも大切なことです。生ごみ処理機購入へ補助制度があります。町は、電動生ごみ処理機の購入に対して、2分の1に相当する額で3万円を上限として補助を行っています。活用してみませんか。

聞きました

清掃センターを
管理している
（有）シダ

向川原 昌 樹さん



一日だいたい10tのごみを処理できる焼却炉ですが、だいぶ年数が経っています。水分の多い生ごみやナイロンなどは高温で燃やさなければならず、焼却炉に負担がかかり、故障の原因になります。燃えるごみに針金が混ざってくると、焼却炉に引っかかってとてもとれにくく大変です。

図1 施設修理費

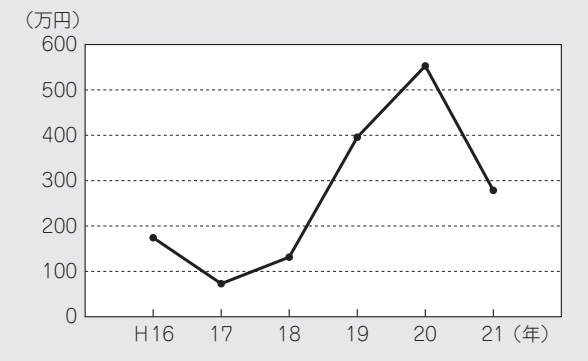


図2 ごみ排出量

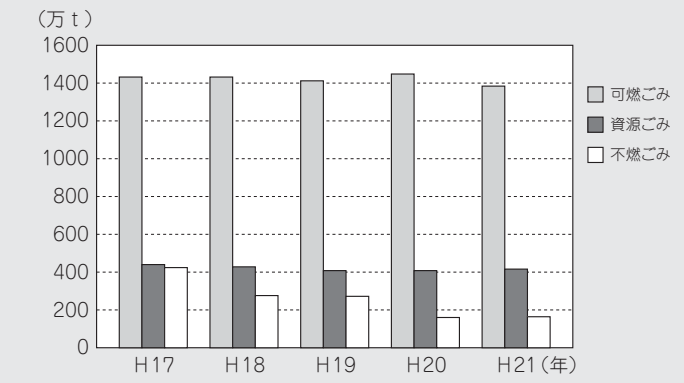


図3 1日1人当たりの排出量

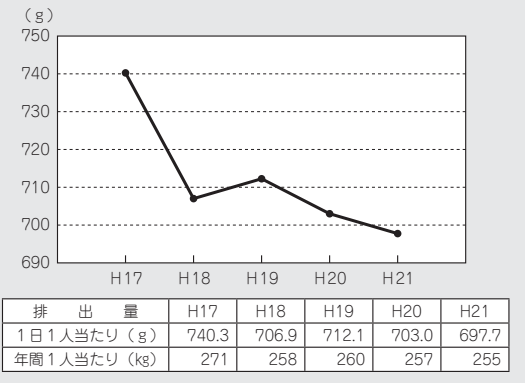


図4 ごみ処理経費

	平成17年度	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度
ごみ収集運搬処理委託費	38,321,240	38,140,670	39,326,450	38,755,710	38,201,760
清掃センター	17,534,660	16,784,149	19,924,270	20,818,378	17,396,991
最終処分場	3,020,484	2,794,363	3,932,106	3,614,011	2,821,713
リサイクルセンター	2,048,560	1,743,750	2,046,569	1,868,933	1,315,870
合計	60,924,944	59,462,932	65,229,395	65,057,032	59,736,334